

# 江田島市公共施設白書

概要版



## 目次

1	はじめに-----	2
2	人口-----	2
3	財政-----	2
4	公共施設の概要-----	3
5	公共施設の配置状況-----	4
6	公共施設の耐震化の状況-----	6
7	公共施設の改修・建替え費用の試算-----	7
8	公共施設が抱える現状と課題-----	8

平成25年3月  
江田島市

# 1 はじめに

江田島市の公共施設は、市民生活やコミュニティ活動などを支えています。その一方で老朽化と維持管理コスト負担の増加、利用状況の低い施設の存在、地域的な施設の偏在、運営管理方法の違いなど数々の問題・課題があります。また、江田島市の公共施設のうち約4割（延床面積）が新耐震基準に適合していないため、公共施設における防災・安全性の確保も課題となっています。

さらに、現在ある公共施設のすべてを維持・更新することは、財政面から難しい状況となっています。このため、中長期的な視点を持ちながら、公共施設のあり方を全体的に見直すことが必要な状況となっています。そこで、江田島市では、公共施設のあり方を検討するための基礎資料となるよう「江田島市公共施設白書」を作成しました。

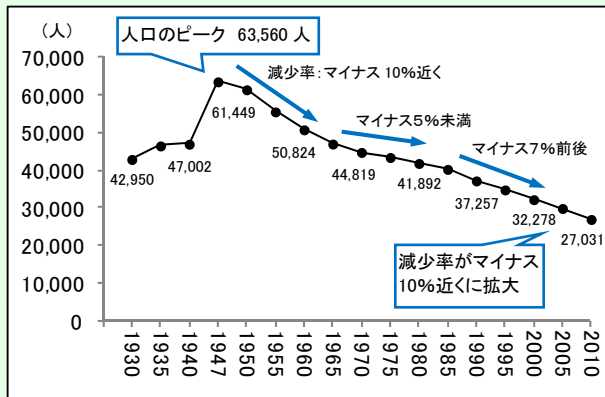
この「江田島市公共施設白書概要版」は、これからの公共施設のあり方を、市民とともに考えていく資料とするものです。（詳しい内容は、江田島市ホームページに掲載している「江田島市公共施設白書」をご覧ください。）

## 2 人口

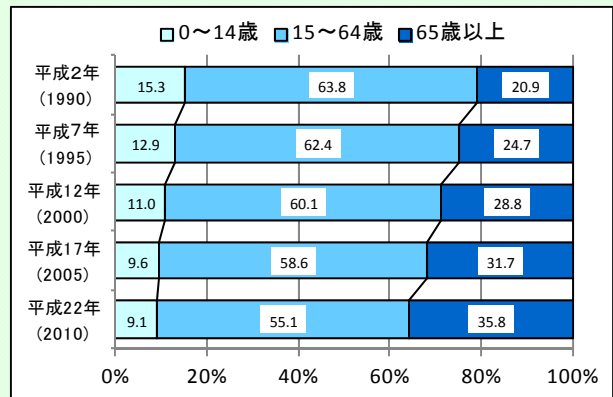
人口は昭和 22(1947)年の 63,560 人をピークにその後減少を続け、平成 22(2010)年で 27,031 人と今後も人口減が推測されます。

人口構成は平成 22 (2010) 年で高齢者（65 歳以上）が 35.8%となっており、少子高齢化が進んでいます。

■人口の推移(国勢調査)



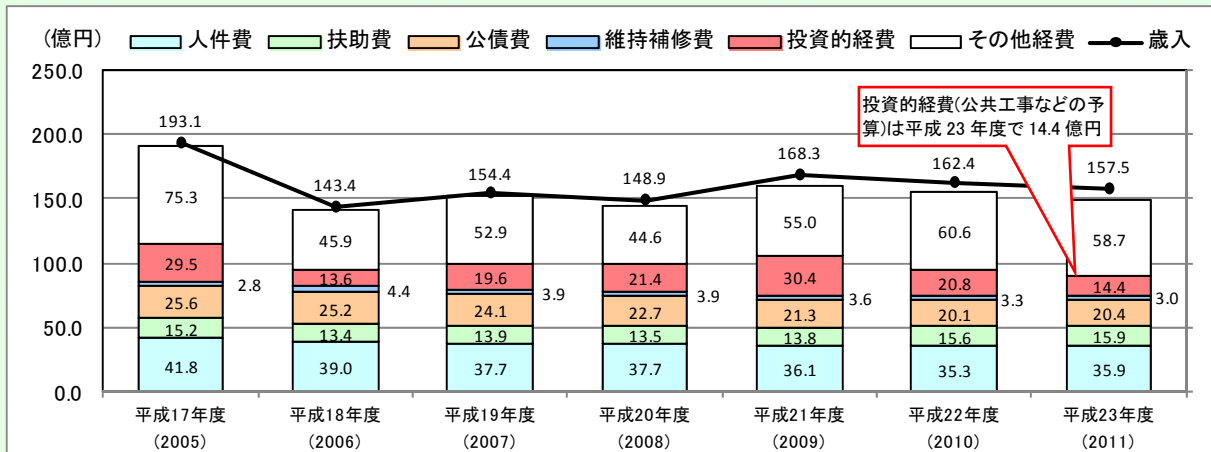
■人口構成の推移(国勢調査)



## 3 財政

財政状況は平成 23 (2011) 年度（決算）で、歳入が 157.5 億円、歳出が 148.4 億円となっています。今後、福祉などの扶助費増加や普通交付税の合併加算の終了などにより、さらに厳しい財政状況が予測されます。

■歳入及び歳出の推移



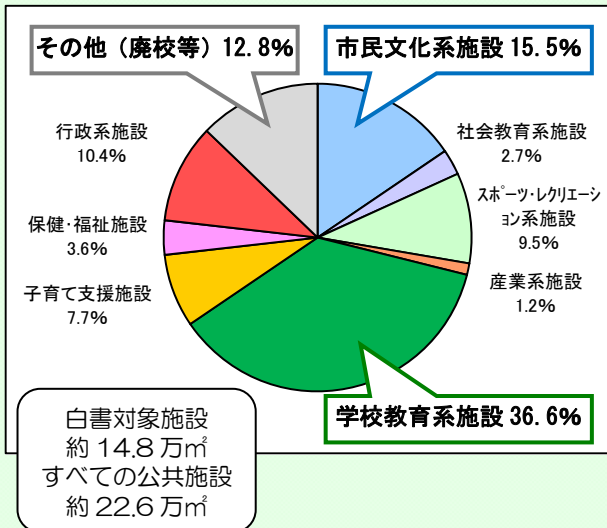
## 4 公共施設の概要

江田島市のすべての公共施設（建物）は約 22.6 万㎡であり、市民 1 人当たりだと 8.43 ㎡となります。全国平均（平成 21（2009）年度末）は 3.22 ㎡/人であり大幅に上回っています。

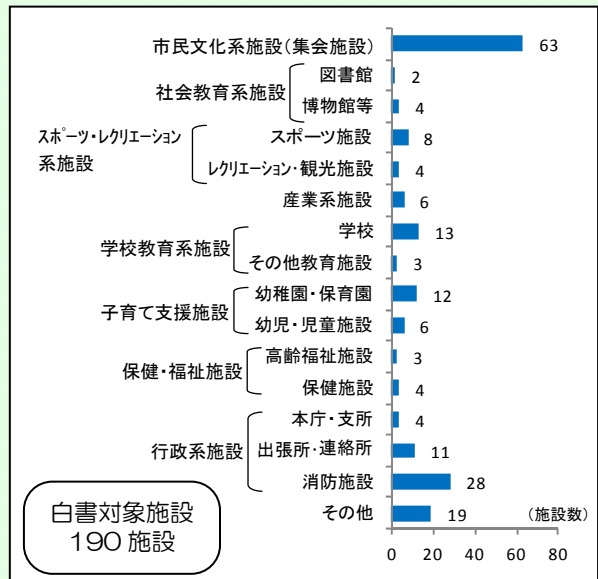
本白書の対象となる公共施設（市営住宅、下水道施設等を除く）は 190 施設、14.8 万㎡あり、延床面積割合で見ると学校教育系 36.6%、市民文化系 15.5%、その他（廃校等）12.8%などとなっています。

建築年次別の整備状況では、昭和 54（1979）年が建築のピークとなっており、築 30 年以上の施設が 52.4%を占めています。近年の整備状況は、江田島市スポーツセンターや大柿分庁舎・支所などのほか、平成 14（2002）年度以降では学校教育系の整備（建替え）を行っています。

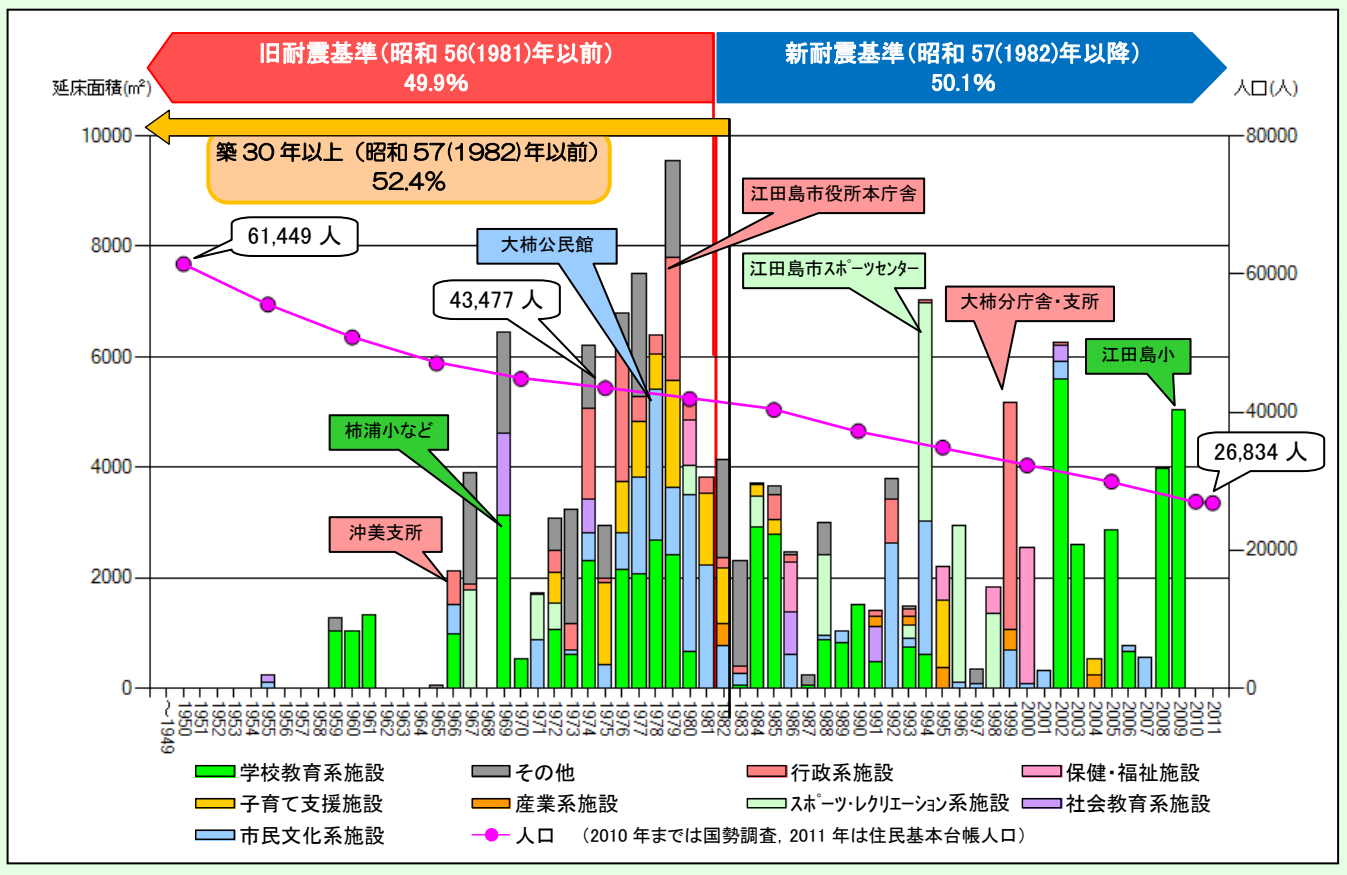
■施設分類別の延床面積の割合（白書対象施設）



■施設分類（中分類）別施設数（白書対象施設）



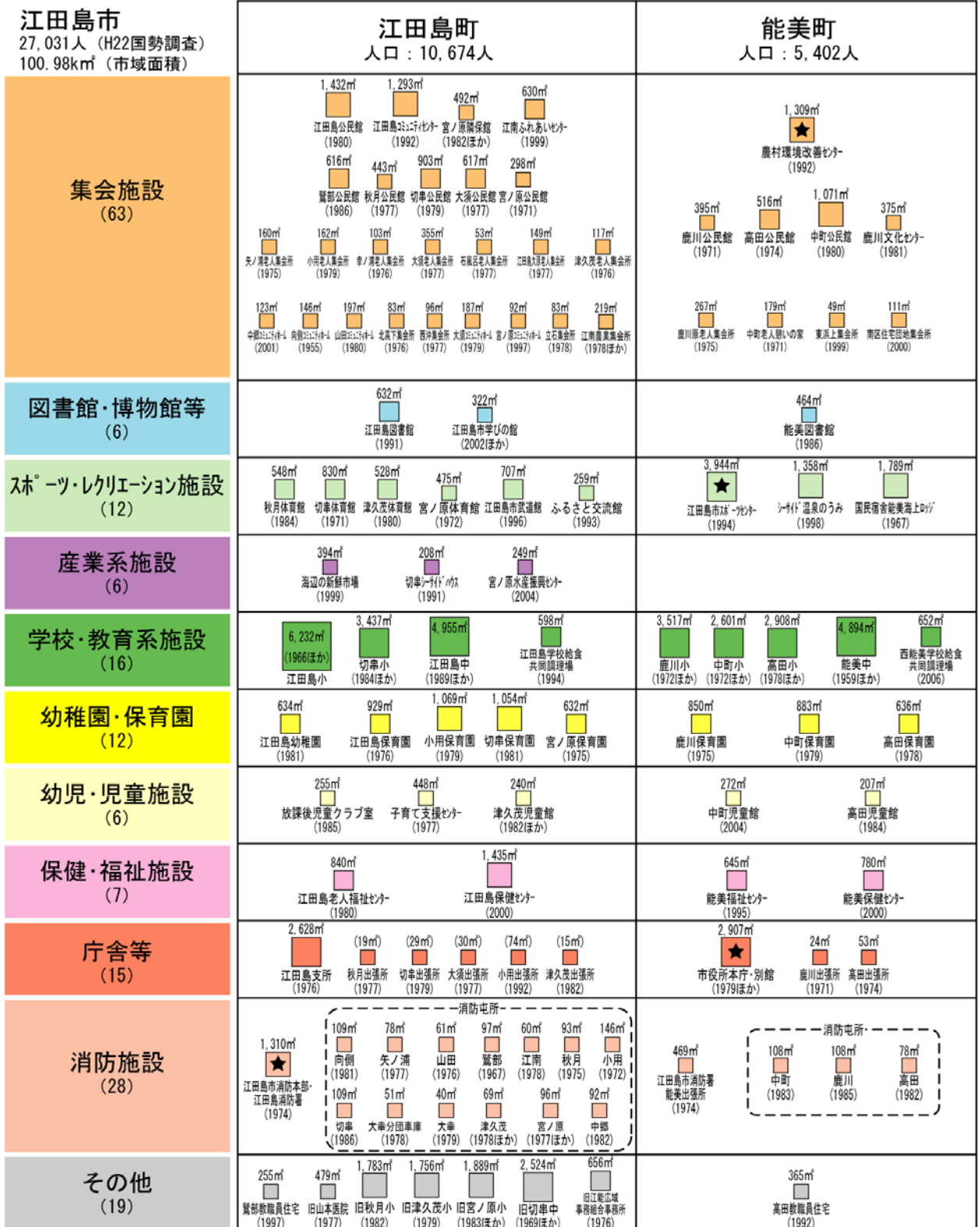
■建築年次別整備状況（白書対象施設のうち 50 ㎡以上の主要建物）



## 5 公共施設の配置状況

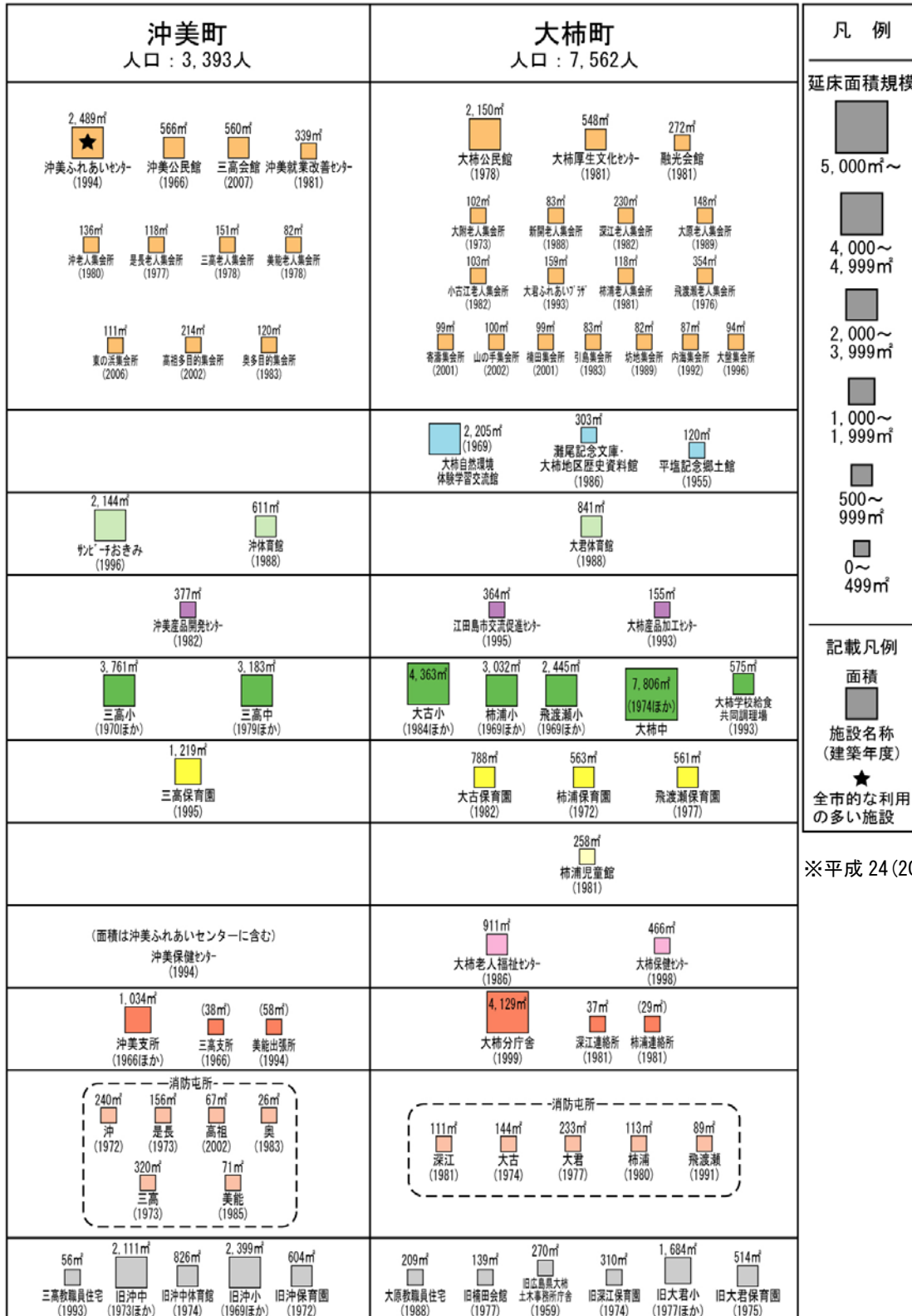
平成23（2011）年度末現在の公共施設の配置を町別で見ると、江田島町に全体の40.0%に当たる76施設があり、次いで大柿町が49施設（25.8%）、能美町が33施設（17.4%）、沖美町が32施設（16.8%）となっています。

また、用途別で施設数をみると、市民文化系施設（集会施設）、スポーツ施設、庁舎等、消防施設などで、江田島町が相対的に多くなっています。



学校については、能美町、大柿町がともに4校（平成23年度末廃校の飛渡瀬小学校を含む）あり、江田島町より多くなっています。

さらに、施設ごとにもみると、公民館については、江田島町に6施設ありますが、能美町は3施設、沖美町及び大柿町は各1施設となっています。博物館については、大柿町に3施設、江田島町に1施設があります。体育館等のスポーツ施設については、江田島町に5施設ありますが、他の3町は各1施設となっています。



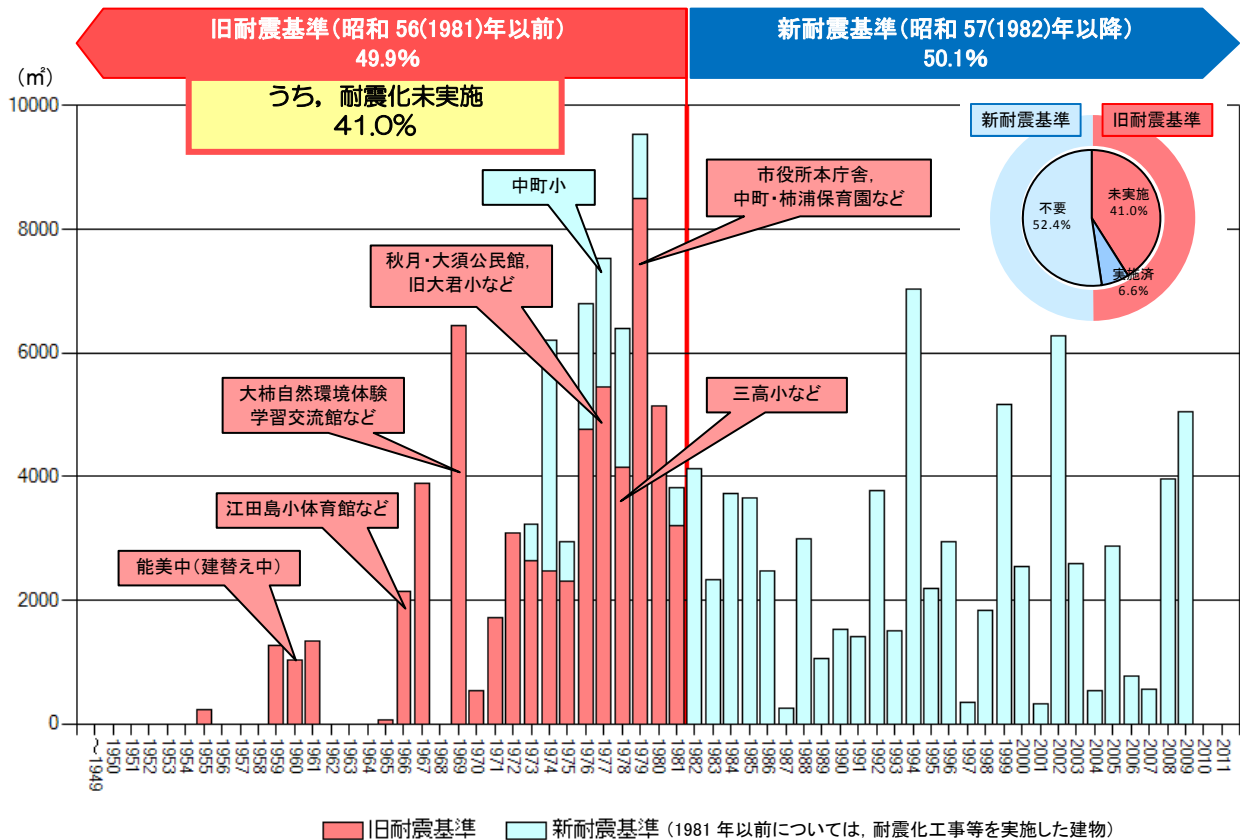
※平成 24 (2012) 年 3 月末現在

## 6 公共施設の耐震化の状況

主要建物の耐震化の状況は、新耐震基準に適合している建物と、耐震化（耐震改修）を実施した施設を合わせて、全体（延床面積）の59.0%となっています。

一方で耐震化未実施の施設が41.0%あり、秋月・大須公民館などの市民文化系施設、三高小学校などの学校教育系施設、中町保育園などの子育て支援施設、市役所本庁舎などの行政系施設で多くなっています。

### ■主用建物の耐震化の状況（白書対象施設のうち50㎡以上の主要建物）



秋月公民館（昭和52（1977）年度建設）



中町小学校（昭和52（1977）年度建設）

## 7 公共施設の改修・建替え費用の試算

白書対象施設をすべて更新すると仮定した場合、今後40年間の更新費用の総額は約639.1億円となります。年平均で約16億円が必要となり、これは、直近5年間の公共施設にかかる投資的経費の平均額である約6.2億円の2.6倍となります。

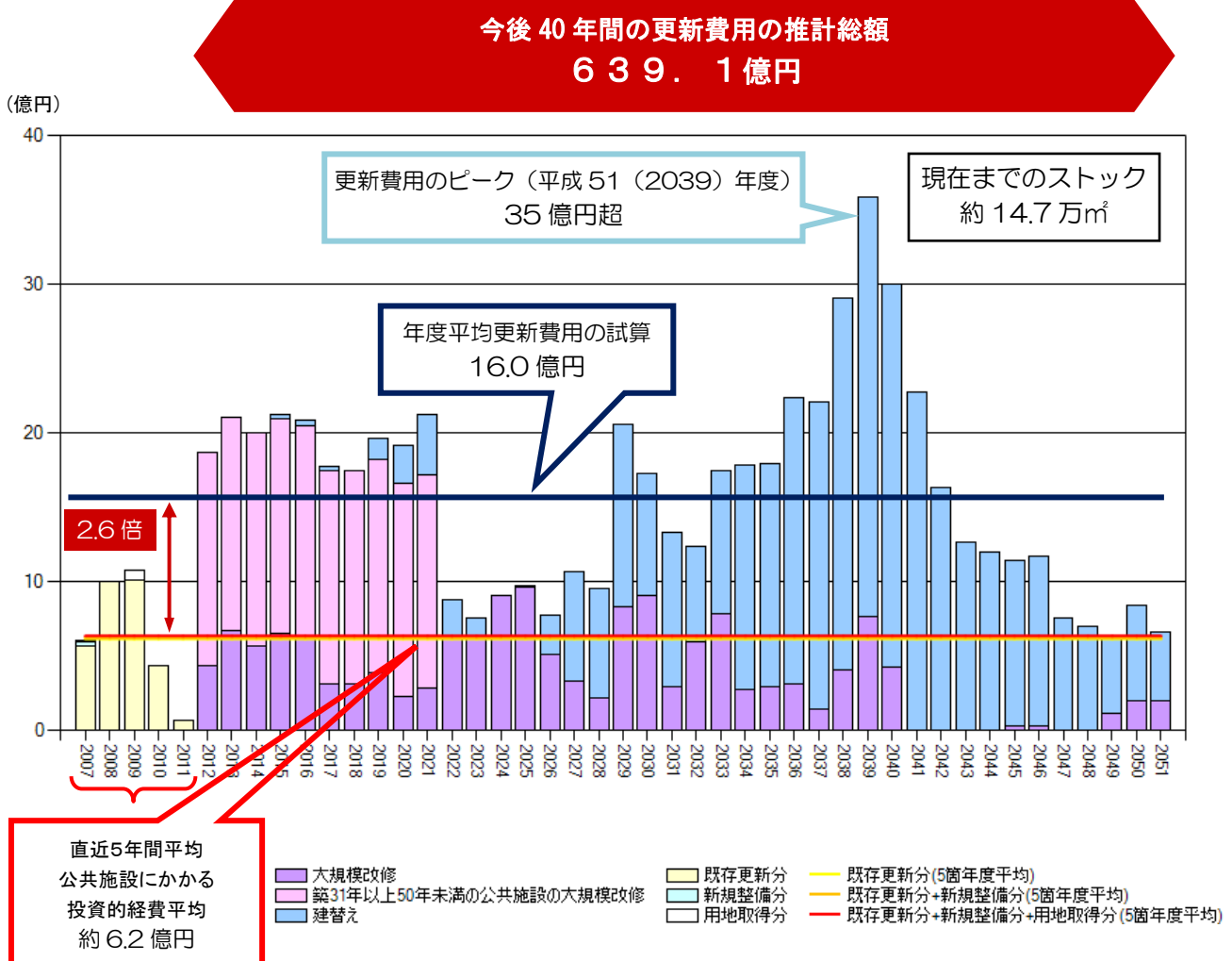
平成33(2021)年度までは、大規模改修を中心に毎年およそ20億円が必要となります。

平成34(2022)年度～平成40(2028)年度まではおよそ10億円までで収まりますが、その後は増加傾向となり、建替え費用が大部分を占め、ピークの平成51(2039)年度には35億円を超える費用が必要となることが予測されます。

<総務省「更新費用試算ソフト」による試算の前提>

- 延床面積50㎡以上の建物が対象
- 施設用途分類ごとに単価を設定
- 大規模改修は築30年で行う
- 建替えは築60年で行う

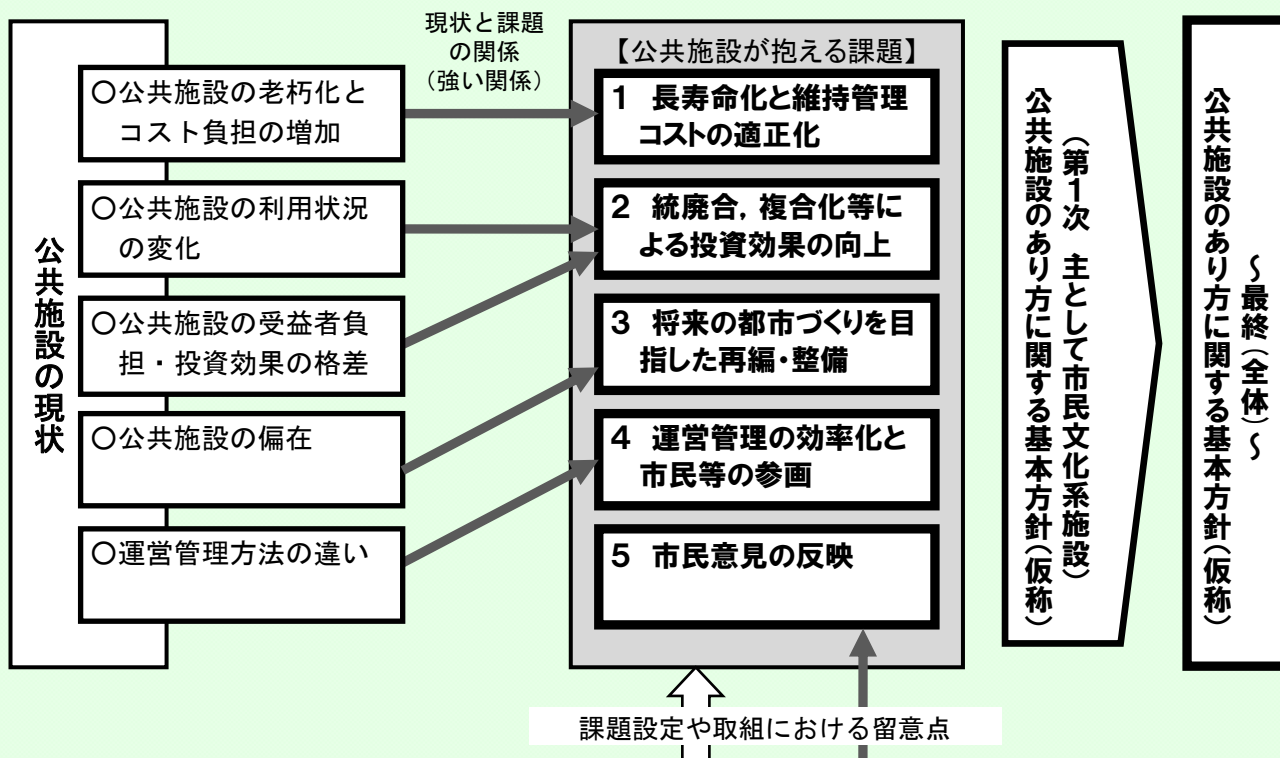
### ■公共施設の将来の更新費用の推計（白書対象施設のうち50㎡以上の主要建物）



## 8 公共施設が抱える現状と課題

江田島市では、公共施設の現状を5つの項目に整理しました。  
 これに、公共施設アンケート調査や市民ワークショップで市民から出された意見を踏まえ、公共施設が抱える課題を5つ設定しました。  
 今後は、この5つの課題の解決に向け、「公共施設のあり方に関する基本方針（仮称）」を市で作成し、公共施設全体（白書対象施設）の基本方針を明らかにする予定です。  
 その過程では、パブリックコメントなどを通じて、市民の皆さまの意見の把握と反映に努めます。

【公共施設が抱える現状と課題】



### <公共施設のあり方に関する市民の意見～公共施設アンケート調査（要点）～>

- 設問6 公共施設については何らかの見直しが必要（約8割）
  - 設問7 使用料は据え置く、施設の量が減っても仕方ない（約5割）
  - 設問8 減らすべき施設は、利用者が少ない施設（約7割）、類似施設が同じ地域にある施設（6割強）
  - 設問9 施設の統廃合に賛成（6割強）、判断が付きにくい場合\*（約3割）
  - 設問10 施設の複合化に賛成（6割強）、判断が付きにくい場合\*（約3割弱）
- \*判断が付きにくい場合：「どちらとも言えない」「わからない」

### 【市民ワークショップ】

#### <ワークショップの内容（検討事項）>

- ① 公共施設の現状を考える
- ② 江田島市または地域に必要な公共施設について意見・アイデアを出そう
- ③ 地域での運営管理を考えよう

発行：江田島市 編集：江田島市総務部政策推進室

〒737-2392 江田島市能美町中町4859番地9 / 電話 0823-40-2778(直) / ファクス 0823-40-2072

<http://www.city.etajima.hiroshima.jp/>